シリーズ 第30回

悲劇の戦国武将、奥津温泉に浸かる

『作陽誌』は、森家津山藩が元禄四年（一六九一）に編纂した美作西部六郡の地誌で、当時の地名や史跡名勝・寺社・言い伝えなどを知ることができる美作の歴史研究には欠かせない書物ですが、この『作陽誌』の「奥津温泉」の項にはこのように書かれています。

（前略）凡そ癩、癬瘡、金瘡、灸瘡及び一切の瘡瘍、並びに能く之を治す。浮田左京亮、久しく瘡痍を患い、諸治験無く、此に浴して全痊を得たり。是より浴者日に衆し。

つまり、奥津温泉は江戸時代以前から様々な病気に効能のある温泉として知られており、そのきっかけとなったのは、浮田左京亮という人物が、治療しても治せなかった傷を奥津温泉で治癒したということで、訪れる人が多くなったというのです。

この浮田左京亮は、豊臣政権下で五大老を務めた岡山城主・宇喜多秀家の従兄弟にあたる、宇喜多詮家、のちに坂崎直盛と名乗る武将です。

詮家は一門の宿老として、二万四千石の知行を得、富山城（岡山市）城主として重要な地位にありましたが、慶長四年（一五九九）のお家騒動の際に主君秀家と対立し宇喜多家を離れ、徳川家康の配下となり、関ヶ原の戦いの軍功によって石見国浜田（島根県浜田市）に二万石の領地を与えられ、のち津和野（島根県津和野町）三万石に移封、その際に坂崎出羽守直盛と名を改め、津和野藩の初代藩主となりました。

元和元年（一六一五）、大坂夏の陣では徳川方として参陣しましたが、大坂城を脱出した家康の孫で豊臣秀頼に嫁いでいた千姫を直盛が保護したことで、褒美に一万石の加増を受け、千姫のために縁談を調えようと奔走している矢先に、千姫は桑名城主（三重県桑名市）本多忠刻と再婚してしまい、面目を潰された直盛は千姫の強奪計画を画策しますが幕府に露見し、柳生宗矩が介錯を務め切腹したとか、家臣に殺害されたといいます。そして坂崎家は断絶してしまいます。戯曲や講談では、家康が千姫を救出した者に嫁がせると約束したものの、千姫の救出で顔にやけどを負った直盛を千姫が嫌い、美男という評判の本多忠刻に嫁いだため、直盛がこのようなふるまいに及んだとドラマチックに創作されています。

詮家が宇喜多家に仕えていた頃、作州は宇喜多家と毛利家が領地をめぐって争っていた時期で、たびたびその支配領域が替わっていました。したがって、詮家が奥津温泉に入湯したのは、西屋城が毛利家によって落城する天正十年（一五八二）以前か、豊臣政権によって作州が宇喜多家の領地と定めた天正十二年以降と思われますが、確たる史料はなく、百年余り地域の伝承として伝わったものが『作陽誌』に掲載されているのみです。

詮家の墓は、津和野の永明寺にあります。十三回忌の際に建てられたという墓石には「坂崎出羽守」ではなく、「坂井出羽守」と刻まれており、これは幕府をはばかってわざと名前を変えて刻銘したものと言われています。

このような悲劇の戦国武将が奥津温泉のにぎわいのきっかけを作ったとされるのは、意外と知られていないエピソードです。

現在の奥津温泉

富山城跡（岡山市）

坂崎出羽守（宇喜多詮家）の墓
（津和野町・永明寺）

参考資料：『作陽誌』、『奥津町史』、岡山商工会議所会報「宇喜多こぼれ話」ほか

生涯学習課　日下
電話（0868）54-7733

〒708-0392 岡山県苫田郡鏡野町竹田660 鏡野町くらし安全課 TEL0868-54-2780
【鏡野町のホームページアドレス】http://www.town.kagamino.lg.jp/